

自動運転の取組状況

令和 8 年 8 月
杉 並 区

杉並区地域公共交通計画等の位置づけ

・ 杉並区地域公共交通計画

目標 4

安全かつ安価で最適な移動が確保されている

施策 4－2 MaaSの実装と自動運転技術の活用検討

取組 4 自動運転技術等の実証実験

本日（8月7日）

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度～令和12年度	令和13年度以降
計画					検討	実施
実績	移行検証シミュレーション (令和6年1月～令和7年1月)			導入計画検討委託 (令和7年9月～令和8年3月)	■令和9年～12年までの検討・実施内容 ・ 運行ルートを選定 ・ 運行車両の検討 ・ 実証実験の実施	

自動運転実証実験（荻窪）
(令和6年11月16日～22日)

有識者ヒアリング

・ 実行計画

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度～令和12年度	令和13年度以降
	現実行計画 (令和6年度～令和8年度)			自動運転技術の活用検討 改定に向けた検討	実行計画改定 (令和9年度～令和12年度)	

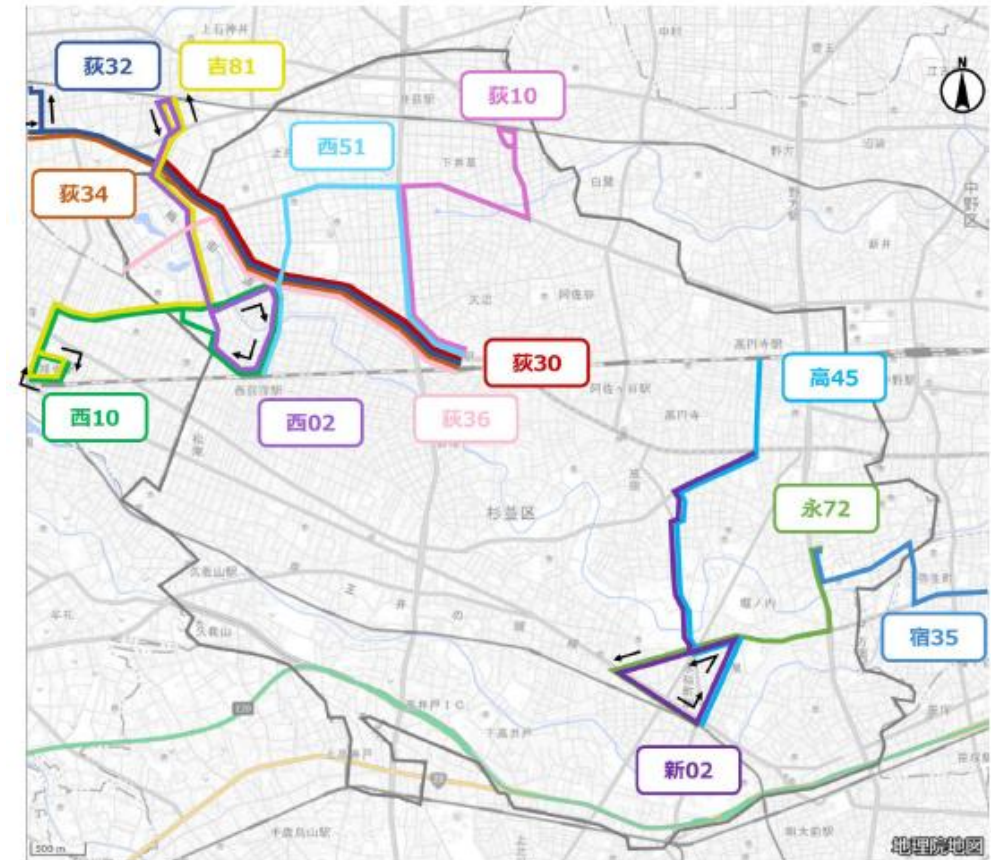
- **自動運転の必要性**
- **これまでの取組**
- **導入可能性の検討**

自動運転の必要性

- ・ **運転士不足に伴う減便・廃線が課題**となっており、区内でも減便や廃線が発生。
- ・ 従来、**路線バスに依存していた移動が将来的に維持できなくなる懸念**がある。

課題1	充実した公共交通ネットワークにおいても点在する公共交通不便地域の解消が求められている
課題2	道路の幅員が狭いことで、コミュニティバスの拡充が困難である
課題3	交通結節点における乗換え負担の軽減や待合環境の快適性の向上と、区境などにおける隣接区市とのネットワークの強化が必要となっている
課題4	あらゆる交通モードの安全性の向上と、各交通モード間をシームレスにつなぐ移動の効率化・最適化が求められている
課題5	交通事業者の運転手不足の解消が求められている
課題6	事業採算性だけでなく、他分野へ及ぼす影響も含めた公共交通の再評価が必要となっている
課題7	脱炭素化、デジタル化、ポストコロナや災害対策など時代の潮流へ対応することが求められている

地域公共交通計画の課題



減便、廃線の状況（2025年～）

自動運転の必要性

■交通課題

- ・ 運転手不足
- ・ 運転手の高齢化・負担軽減

■地域課題

- ・ 路線バスが多くの区民の生活を支えており、減便・廃線による影響が大きい
- ・ 区民の高齢化の進行

**自動運転サービスを導入し、地域住民の
移動手段を持続的に確保していく必要がある**

これまでの取組

実施年度	項目	内容
平成30年度	井草森公園周辺における自動運転実証実験	井草森公園を活用して、都内初となる自動運転車の実証実験を実施。 車両はゴルフカートをベースとした。
令和5～6年度	自動運転への移行検証 シミュレーション	グリーンスローモビリティでの将来的な自動運転技術の活用を視野に、自動運転への移行検証等を実施。
令和6年度	荻窪地域における自動運転実証実験	荻窪駅南側地域において、本格運行を開始したグリーンスローモビリティでの自動運転の実証実験を実施。
令和7年度	自動運転移動サービス導入計画検討	区の地域特性、過年度の成果等を考慮した自動運転移動サービスの導入計画を作成。

導入可能性の検討

・今後の自動運転技術の導入可能性については、技術の発展状況や区内の最新交通課題を踏まえ、以下のとおり検討を進める。

①これまでの自動運転の実証実験等における課題の解消を図り、自動運転技術を高める

②区が運行主体となるモビリティに自動運転技術を導入し、多様な車両への対応を可能とする

③南北方向の交通利便性の確保や交通空白地域への対応、バス減便・廃止路線を補完するため自動運転技術の導入する



区内の道路環境において技術的な課題を解消し自動運転の実装に向けて、令和9年度以降、検討を進めていく必要がある。